

東海防衛だより

2019年春号

東海防衛支局の取組等／東海3県の自衛隊の動き

- ◆ 東海防衛支局の平成のあゆみ
- ◆ 新たな「防衛計画の大綱」・「中期防衛力整備計画」
- ◆ 明野駐屯地へのオスプレイの飛来
- ◆ 豚コレラに係る災害派遣
- ◆ 自衛隊の記念行事と地元との交流
- ◆ 平成30年度伊勢湾掃海訓練
- ◆ 三重地方協力本部による四日市港艦艇広報

東海3県の防衛産業・技術基盤

- ◆ 防衛の一端を担う高度な技術
(川崎重工業株式会社岐阜工場)

機雷処理訓練に向う水中処分員

東海防衛支局の平成のあゆみ

2019年4月30日に天皇陛下が退位され、翌5月1日、平成から新しい元号に改められます。東海防衛支局の平成の歩みについて、ご紹介します。

※ 赤字：支局関連の出来事
青字：防衛関連の出来事
黒字：国際情勢関連の出来事

元年

ベルリンの壁崩壊
イラク軍クウェート侵攻
ドイツ統一
湾岸戦争
雲仙普賢岳噴火災害派遣
ペルシャ湾への掃海艇派遣
倉舎を現合同庁舎に移転 写真①
旧ソ連の崩壊、冷戦の終結

2

3

カンボジアPKO派遣
守山駐屯地小幡訓練場等の用地交換 解説①
米軍依佐美通信所の返還 解説②
阪神・淡路大震災に伴う災害派遣
地下鉄サリン事件に伴う災害派遣

4

6

7

8

10年

日米安全保障共同宣言
SACO最終報告
長野冬季オリンピック開催
守山駐屯地宿舎新設 写真②
防衛庁、市ヶ谷庁舎へ移転
米国同時多発テロ
テロ対策特別措置法に基づき協力支援活動など実施

12

13

日韓共催サッカーワールドカップ開催
飛行場周辺における環境整備のあり方に関する懇談会からの報告 解説③
イラク難民救援国際平和協力業務実施

14

15

日朝首脳会談 拉致被害者帰国
住宅防音工事に太陽光システム設置事業（モニタリング）を開始 解説③-I
周辺対策事業で岐阜基地周辺整備統合事業を開始 解説③-II

16

17

緑地整備の新たな施策・各務原市「生命の森」事業を開始 解説③-III

18

統合幕僚監部発足
装備本部の新設、地方連絡部の地方協力本部への改編
KC-767格納庫新設 写真③

19

防衛庁の防衛省への移行
地方協力局、装備施設本部、防衛監察本部新設
地方防衛局、東海防衛支局新設 写真④
C-2格納庫新設 写真⑤

20年

海自次期固定翼哨戒機XP-1試作1号機受領 写真⑥
KC-767空中給油・輸送機受領 写真⑦

21

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処のため自衛隊派遣

23

伊勢湾での掃海訓練開始 写真⑧
東日本大震災に伴う災害派遣

25

アルジェリア邦人拘束事件

26

陸上自衛隊守山駐屯地日野射撃場完成 写真⑨

27

小牧基地オープンベースで44年ぶりブルーインパルスの展示飛行 写真⑩
防衛装備庁の新設

28

G7伊勢志摩サミット
久居駐屯地の用地交換 解説④
C-2輸送機受領 写真⑪
熊本地震に伴う災害派遣
バングラデシュ武装集団による人質立てこもり事件

29

F-35A戦闘機の初飛行 写真⑫
西日本豪雨災害に伴う災害派遣
北海道胆振東部地震に伴う災害派遣

30年

東海防衛支局の建設部門の近畿中部防衛局への一元化 解説⑤
豚コレラ（愛知・岐阜県）に伴う災害派遣
オスプレイが初めて明野駐屯地に飛来 写真⑬

31

解説⑥平成30年12月1日
東海3県の管轄する区域の防衛施設の建設工事に関する業務を近畿中部防衛局に一元化

名古屋合同庁舎第1号館
東海防衛支局 ④

① 旧庁舎での記念撮影
② 守山駐屯地宿舎
③ KC-767格納庫
④ 防衛省
⑤ C-2格納庫
⑥ XP-1
⑦ KC-767
⑧ 伊勢湾掃海訓練
⑨ 日野射撃場
⑩ ブルーインパルス
⑪ C-2輸送機
⑫ F-35A戦闘機
⑬ MV-22オスプレイ

解説①平成3年5月28日
守山駐屯地小幡訓練場用地12,927㎡
小幡北山宿舎用地4,507㎡と
道路公団用地64,143㎡との交換契約
締結（自動車訓練場用地62,138㎡、
宿舎用地2,005㎡）

解説②平成6年8月1日
依佐美通信所 昭和27年に米軍に提供
されたものであり、土地約156万㎡
（概ね、1,760m×880m）
建物13棟約3,000㎡工作物一式を返還

解説③防衛施設庁は、新たな
施策の充実・推進等として、
I 太陽光発電システムの設置
の助成、
II 統合事業の助成、
III 周辺財産の積極的な活用

解説④平成28年
3月30日久居駐屯
地用地9,403㎡と津
市用地9,403㎡の交
換契約締結

解説⑤平成30年12月1日
東海3県の管轄する区域の防衛施設の
建設工事に関する業務を近畿中部防衛
局に一元化

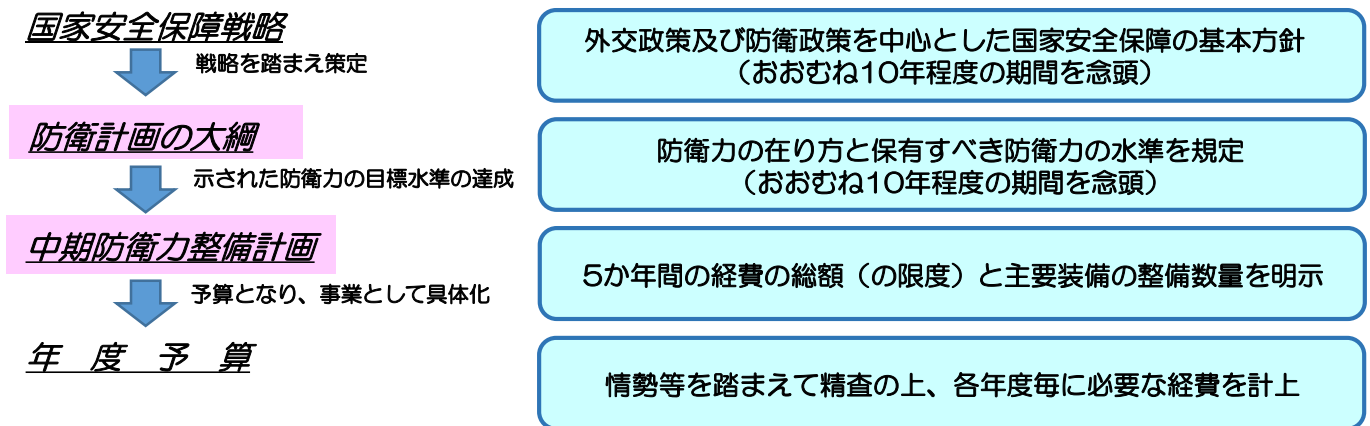
新たな「防衛計画の大綱」・「中期防衛力整備計画」

昨年12月、新たな「防衛大綱」・「中期防」が策定されました。

■位置づけ・意義

- 防衛計画の大綱（大綱）は、国家安全保障戦略（戦略）を踏まえ、我が国の**防衛の基本方針、防衛力の役割、自衛隊の具体的な体制の目標水準等**を示すものです。
- 中期防衛力整備計画（中期防）は大綱に示された防衛力の目標水準等を踏まえ、**5年間を対象**として策定する防衛力整備の計画であり、同計画に従い、各年度の防衛力整備を行っていきます。

■戦略・大綱・中期防・年度予算の関係



■新たな大綱・中期防の策定について

- 我が国を取り巻く安全保障環境は、前大綱（25大綱）の策定時に想定していたよりも、**格段に速いスピードで厳しさと不確実性を増しています。**
- 特に、**国家間のパワーバランスの変化の加速化・複雑化、グレーゾーンの事態の長期化、そして、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域の利用が急速に拡大したことで、これまでの国家の安全保障の在り方が根本から変わろうとしています。**
- こうした中でも、我が国に対する脅威が現実化し、国民の命と平和な暮らしを脅かすことを防ぐためには、**安全保障の現実から向き合い、従来の延長線上ではない真に実効的な防衛力を構築する必要があります。**
- 平成30年1月の総理大臣による施政方針演説において、同年末までに前大綱を見直すとの方針が示され、有識者懇談会（「安全保障と防衛力に関する懇談会」）においてもご議論頂きつつ、政府として検討を進めてきた結果、平成30年12月18日、新たな大綱を閣議決定しました。

- 新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画の内容は、防衛省ホームページに掲載しています。

防衛省ホームページ <https://www.mod.go.jp/>



明野駐屯地へのオスプレイの飛来

平成31年2月4日から15日の間、滋賀県高島市の饗庭野演習場において、自衛隊と米海兵隊との実動訓練が実施されました。

本訓練には、普天間飛行場に所在する米海兵隊のMV-22オスプレイ等の訓練移転も組み込まれ、今般の日米共同訓練の効率的な訓練実施と航空機の整備等の様々な要素を勘案し、日米間で調整した結果、オスプレイの整備拠点として、明野駐屯地を使用することが決まり、東海地区で初めて日米共同訓練でオスプレイが明野駐屯地に飛来することとなりました。



米海兵隊との集合写真



饗庭野演習場へ向かうオスプレイ



明野駐屯地に駐機するオスプレイ

東海防衛支局では、三重県の方々に速やかにオスプレイに関する情報をお伝えするため、同駐屯地内に現地対策本部を設置し、職員が情報を収集し、関係自治体に情報提供を行いました。また、米海兵隊員が伊勢市内のホテルに滞在していたことから、支局職員による夜間の巡視を行いました。

この度、関係自治体の方々をはじめ、地域住民のご理解ご協力により無事訓練を終了することができました。



現地対策本部の様子



支局職員による巡視

豚コレラに係る災害派遣

陸上自衛隊第10師団（守山駐屯地、豊川駐屯地、久居駐屯地、春日井駐屯地、金沢駐屯地）は、平成30年12月25日から平成31年2月21日の間、愛知県（豊田市、田原市）、岐阜県（関市、各務原市、恵那市、瑞浪市）で豚コレラの発生が確認されたことから、両県知事より災害派遣の要請を受け、それぞれの地域において防疫措置（殺処分の支援、汚染物品の運搬と処理及び豚舎の消毒等）を実施しました。

作業終了後に、両県から大変過酷な環境の中、昼夜を問わずの作業に対し、御礼の言葉がありました。



夜間作業の景況



汚染物（飼料）の回収を行う隊員



養豚施設を消毒する隊員



汚染物（飼料）を落とす隊員



現場視察する第10師団長（中央）



養豚施設内を清掃する隊員

自衛隊の記念行事と地元との交流

平成31年3月2日、航空自衛隊小牧基地のオープンベースが開催され、約6万4千人の来場者がありました。

C-130H輸送機4機編隊によるオープニングフライトに始まり、ヘリコプター等による捜索救助や空中消火といった災害派遣のデモンストレーション、更にブルーインパルスによる展示飛行が行われ、来場者からは大きな拍手と歓声が湧きました。また、C-130H輸送機に搭載可能な岡崎市中消防署本署配備中（総務省消防庁から無償使用）の全地形対応型消防車「レッドサラマンダー」、空飛ぶ航空機動衛生ユニットや警備犬などが展示され、たくさんの来場者が見学していました。東海防衛支局も広報ブースを出展し政策広報を行いました。



6機のブルーインパルスの飛行



飛行前滑走路へ向かうブルーインパルス



ブルーインパルスによる展示飛行



C-130H輸送機に搭載されるレッドサラマンダー



行儀良く指示を待つ警備犬



東海防衛支局職員による政策広報

平成30年度伊勢湾掃海訓練

平成31年2月1日から10日までの間、伊勢湾の松阪港沖約10kmに設定された訓練海面において、海上自衛隊掃海隊群と全国の掃海部隊から掃海母艦「うらが」、「ぶんご」を含む艦艇16隻、航空機1機、隊員約800名が集結し、掃海訓練（機雷戦訓練）が実施されました。

この訓練は、掃海艇や掃海ヘリコプターを使用し、機雷の除去・処分や敷設を行う能力の維持向上を図るため、日本沿岸の海域で訓練に適した地域を選定の上、毎年度行われているものです。なお、伊勢湾での掃海訓練は、平成22年度以降8回目の実施となります。

海上自衛隊は、現在、伊勢湾を含め全国4か所（ほかに硫黄島周辺、むつ湾、日向灘）で掃海訓練を行っておりますが、伊勢湾での掃海訓練は、年度を締めくくる総括的なものとして、海上自衛隊にとって極めて重要な訓練と位置付けられています。

また、訓練の間は、伊勢湾周辺の漁業者の皆様様の操業制限を行うこととなります。訓練は、愛知県、三重県各漁業協同組合連合会や訓練設定海面に近い地元の各漁業協同組合の皆様方のご協力の下に成り立っており、伊勢湾における訓練の必要性、重要性に対するご理解、ご協力を得ながら、今後とも伊勢湾での掃海訓練を継続的に実施できるよう努めてまいります。



掃海母艦「ぶんご」と掃海・輸送機MCH-101



掃海母艦と掃海艇による掃海訓練



掃海艇「やくしま」



ボートによる掃海訓練

三重地方協力本部による四日市港艦艇広報

～四日市港での艦艇広報を活かし自衛官募集の牽引力へ～



平成31年2月10日、三重地方協力本部は四日市港において、海上自衛隊掃海隊群と県内各部隊の支援を受け、掃海母艦「うらが」と「ぶんご」の公開を行い、約1,000名の来場者で賑わいました。

募集広報ブースでは、VR（バーチャルリアリティ）ゴーグルによるブルーインパルス飛行体験、制服試着、オリジナル缶バッジの作成、自衛隊車両の展示等で、子供から大人まで楽しめる各種広報展示も行い、見学者は、「近くで見ると大きくてすごい迫力ですね。ぜひまた来たいです。」と興奮気味に話していました。



乗艦を待つ人たち



募集広報ブース



三重地方協力本部長
1等陸佐
鹿子島 洋

三重地方協力本部では、関係自治体や港湾関係者等のご理解とご協力を得て四日市港での艦艇寄港の機会を最大限に活用して、海上自衛隊の認知度の向上と三重県全域での自衛官募集広報の牽引力となるよう工夫を凝らした広報を継続していきたいと思っています。

防衛の一端を担う高度な技術

川崎重工業株式会社岐阜工場

東海防衛支局では、防衛省・自衛隊が使用する装備品の調達にあたり、製造工程での審査や、最終的な完成検査を行っています。そこで、このコーナーでは我が国の防衛力の基盤となる製造会社の技術力を紹介します。

1 1世紀に亘って培われた技術力

川崎重工業株式会社岐阜工場は、濃尾平野の北部の岐阜県各務原市に位置し、約70万平方メートルの広大な敷地を有しております。大正12年に開設された工場は、第2次世界大戦直後に一時縮小を余儀なくされたこともありました。T-33Aジェット練習機の製造を開始したのを皮切りに、P2V-7対潜哨戒機、P-2J対潜哨戒機、C-1輸送機、P-3C哨戒機、T-4練習機、OH-1観測ヘリなど最先端、最高水準の技術が要求される数多くの航空機を1世紀近くの長きに亘り生産し続けています。



川崎重工業株式会社 岐阜工場

2 大型機2機種同時開発に成功

平成13年度からは、P-1哨戒機とC-2輸送機の2機種同時開発が開始され、P-1哨戒機については平成24年度に完了し、C-2輸送機については試作機の試験段階で不測のトラブルに直面し、開発スケジュールの延長を余儀なくされましたが、平成28年度に開発が完了し、世界的にみても例のない大型機2機種の同時開発に成功しました。



P-1哨戒機 全幅：35.4メートル
全長：38.0メートル
全高：12.1メートル



C-2輸送機 全幅：44.4メートル
全長：43.9メートル
全高：14.2メートル

3 生産用設備も開発

大型航空機であるP-1哨戒機及びC-2輸送機は、当然のことながら使用される部材も大きくなります。とくにC-2輸送機は、日本国内で開発した過去最大規模の航空機であり、その大きな外板（胴体パネル）を曲面と平面で構成される複雑な形状にする必要がありました。

しかしながら、既存の加工設備（設備名称：シートストレッチャ）では、大型の外板等を加工できません。また、動作軸が少ないことから動きに制約が多く、加工した際にしわや割れなどの整形不良が発生しやすいこと、複数の動作軸の協調動作が不可能であったため、加工には匠の技をもつ熟練工の存在が不可欠であるなど、安定した生産を行うためには多くの問題がありました。これらの問題をクリアするためには、航空機製造技術、ロボット技術、シミュレーション技術及び油圧技術が必要となりました。

そこで、大型のシートストレッチャの開発・製造に当たっては、当時の航空宇宙カンパニーだけでなく、本社技術開発本部や関連会社等の協力を得たほか、使用する特殊な油圧機器については、当時の精密機械カンパニー製のものを使用するなど、まさに「オールカワサキ」で取り組むこととなりました。

4 新型シートストレッチャ導入

多くの関係者の苦勞の結果完成した新型のシートストレッチャは、航空機胴体パネルをはじめとした航空機外板などの自由曲面を持つ薄板の成型にあたり、成型解析から実成型までを一貫して行うシステムになっており、解析上で成型結果の予測ができます。これにより実成型による試作工程を大幅に削減できるとともに、熟練技能を要する製品が自動で安定して生産することが可能となりました。また、将来を見据えて動作軸を36軸と大幅に増やしたので、加工の自由度が向上し、より複雑な形状の製品を作ることも可能となりました。



設備仕様

幅：約11メートル
長さ：約25メートル
高さ：約5メートル
深さ：約9メートル
設備重量：約250トン
成型能力：約1500トン
成型可能サイズ
幅約3m×長さ約11m



加工中の様子

さらに、エネルギー消費量の削減や、作業の安全性の向上も図られていました。今回の開発に関連した川崎重工業の技術力に対しては、鍛造機械の世界最高級の賞として位置付けられている、日本鍛圧機械工業会のMF（Metal Forming）技術大賞を受賞したことで、社外からも高く評価されています。



受賞記念の盾

成型不良の例







(しわ)



(割れ)

地本だより

自衛隊地方協力本部（地本）は、自衛隊を志す方やご協力・ご支援を頂ける皆様への窓口です。

<p>愛知地方協力本部 （電話）052-331-6266 http://www.mod.go.jp/pco/aichi/</p> 	<p>●「自衛隊広報ルームへ、ご招待♪」 自衛隊の写真パネルや模型、実物大の装備品などを展示している楽しいスポットです。 他にも制服を試着して記念撮影するコーナーなど盛りだくさん！自衛隊グッズがゲットできるイベントDAYもありますので、ぜひ遊びに来て下さい！</p> 
<p>岐阜地方協力本部 （電話）058-232-3127 http://www.mod.go.jp/pco/gifu/</p> 	<p>● 防衛省自衛隊広報センター「自衛館」 自衛隊のパネルや「親子プラモデル教室」で作成されたプラモデル、装備品の模型などを展示している楽しいスポットです。ぜひ遊びに来て下さい♪</p>
<p>三重地方協力本部 （電話）059-225-0531 http://www.mod.go.jp/pco/mie/</p> 	<p>● 各種イベントや自衛隊に関する情報を紹介しています！ 各種SNS (Twitter、Facebook、Instagram)も随時更新中！ 詳しくはHPでお待ちしています。</p>

自衛官等募集案内

募集種目	応募資格	受付期間	試験期日	合格発表
自衛官候補生	18歳以上 33歳未満の者	年間を通じて行っています。	受付時にお知らせします。	合格発表は試験日にお知らせします。

※ 詳しい情報は、各自衛隊地方協力本部にご確認下さい。

2019年度防衛省職員採用試験の御案内

国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験）

【申込受付期間】（申込みは、インターネットにより行ってください。）

2019年4月5日（金）9：00～4月17日（水）[受信有効]

【試験の日程】

第1次試験日 2019年6月16日（日）

第1次試験合格者発表日 2019年7月10日（水）9：00

第2次試験日 2019年7月17日（水）～8月2日（金）

最終合格者発表日 2019年8月20日（火）9：00

防衛省ホームページ
「採用情報」

<http://www.mod.go.jp/j/saiyou/index.html>



人事院ホームページ
「国家公務員試験採用情報NAVI」

<http://www.jinji.go.jp/saiyo.htm>



※ 詳しい情報は、人事院及び防衛省のホームページをご確認下さい。

